

報 告

台湾リハビリテーション工学協会の学術大会に参加して

東洋大学 繁成 剛

1. はじめに

3月25日から27日まで台北市と花蓮市において台湾リハビリテーション工学協会 (TREATS) が主催する学術大会と第2回アジアリハビリテーション工学支援技術カンファレンス (ACREAT) に招待され講演してきたので、その概要について報告したい。

2. 大会の特徴

TREATS の現会長は陳適郷氏で、本大会の名誉会長となっている。陳会長とは昨年11月にソウルで開催された韓国リハビリテーション工学協会 (RESKO) の学術大会でお会いし、国際セッションの座長を二人で担当した。また昨年、那覇で開催された第30回リ工学カンファレンスにも参加され、本協会との交流を積極的に進めている親日派である。今回の大会は会員の研究発表やポスター展示もあったが、ACREAT の国際シンポジウムの方に重きを置いたプログラム構成になっていた。海外からの招待講演者は北米リハビリテーション工学協会 (RESNA) 会長の Raymond Grot 氏、RESKO 副会長の Inhyuk Moon 氏、ハワイ大学の Henry Lew 教授、東北大学の半田康延教授そして私の5名であった。半田教授は体調が優れず、残念ながら不参加であった。

3. 大会初日の内容

25日と26日は台北市内の剣潭青少年活動センターで学術大会が開催され、同時に台北エキスポパークで福祉機器展が併催されていた。初日に参加者はまずエキスポパークの会場で受付を済ませて、福祉機器展を見学した後で青少年活動センターに移動した。

17時から開会式と大会長の講演、記念講演が終わった後に、別会場のホールで様々なパフォーマンスと交流会があった。

交流会の後で非公式ながら、Grott 会長を囲んで TREATS の主だった役員数名と RESKO の Moon 氏そして筆者を含めて、RESNA の提案している支援技術に関する国際協定 (Alliance of Assistive Technology Professional Organizations) について話合った。供出金や国際大会の担当などについて Grott 会長に質問したが、まだ今後の具体的な内容については参加組織の代表からなる運営委員会で決めていくとのことで、満足な回答は得られなかった。

4. 大会二日目の内容

26日の午前中は海外からの招待講演者の講演が続いた。まず Grott 氏が RESNA の活動とアメリカの支援技術について具体例を挙げながら紹介した。次に RESKO の Moon 氏がロボット技術を応用した支援機器と国際規格について解説した。筆者は当協会の活動の概要と国立障害者リハビリテーションセンター研究所、横浜市総合リハビリテーションセンター、兵庫県福祉のまちづくり研究所がそれぞれ実践している支援技術に関する研究活動について紹介した。

久しぶりに英語で講演したが、会場のパソコンでは、準備していたパワーポイントのデータがうまく映らず、座長の質問にも十分答えられなかったので、満足のいくプレゼンにはならなかったのが残念だった。講演後は陳会長から感謝状をいただき、大会役員と招待講演者が揃った記念写真が撮られた (図1)。その後もロボット技術を使ったリハビリテーションなど台湾における研究の講演が続いたが、Grott 氏と Moon 氏と筆者は、大会関係者の案内でエキスポパークに移動し、開催されている福祉機器展を視察した (図2)。講演会場でテクノエイド協会の寺光氏が講

東洋大学

〒351-8510 埼玉県朝霞市岡 48-1



図1 大会会場での記念写真



図2 台北エキスポパークで福祉機器展を見学

演していたのに驚く。また工業技術研究院が開発したロボットスーツを身につけた頸髄損傷者が会場内を歩行していて来場者の目を引いていた。

5. 大会三日目の内容

二日目のプログラムが終了した後、大会役員と招待講演者は台北駅から特急電車に乗り、約2時間かけて台湾の東海岸にある花蓮市に移動した。三日目の会場は市内にある慈済大学で開催されるため、大会役員と我々ゲストは大学寮に宿泊した。この日も前日と同様に Grott 会長、Moon 副会長、筆者そしてハワイ大学の Lew 教授の順番で講演した。慈済大学のリハビリテーション学科の学生が多く参加すると聞いていたので、発表内容は日本のシーティング技術と筆者がこれまでデザインしてきたテクノエイドの紹介にした。4名の演者は講演後に壇上に座り、参加者との質疑応答と講演内容の補足説明をした。その後は慈済大学の教授で副大会長の林光華教授から感謝状を頂戴した。会場となった慈済大学は仏教系の団体

が設立した教育機関で、社会福祉系と医療系の学部があり、キャンパス内に巨大な礼拝堂が建てられていた。創業者の銅像の前で、役員とゲストスピーカーの記念写真が撮られた(図3)。



図3 慈済大学での記念写真

6. 大会を終えて

大会の最終日は、主催者の粋な計らいで、我々海外からのゲストスピーカー4名を花蓮市の郊外にある有名な景勝地「太魯閣溪谷」に案内していただき、迫力のある景観が果てしなく続く溪谷を観光することができた(図4)。今回の大会で TREATS の陳会長、RESNA の Grott 会長そして RESKO の Moon 副会長と親交を深めることができ、当協会との国際連携に少なからず寄与することができたのではないかと自負している。今後も RESNA の提唱する国際協定を進めながら、アジアにおけるリハビリテーション工学と支援技術の学術的な交流を一層緊密に発展できるように努めたいと考えている。



図4 太魯閣溪谷で陳会長と